

# 文化

## まちぐるーひと 3

那覇の市場界隈

橋本 倫史

旧・牧志公設市場の向かいにユニークな看板を見かけた。田芋・島バナナ専門店を掲げる「三芳商店」だ。

「この場所に店を構えて、もう40数年になります」。二代目として店を切り盛りする宮城洋子さん(63)はそう語る。露店を出し、田芋を販売して

「義母の時代は、大山の農家さんを10軒近く抱えて、1軒ふんの田芋を1日で売って、5人の子供たちを育て上げて、大学まで出しているんです。このあたりにはいろんな露店があって、『あの頃は何でも商売になったよ』と皆さんおっしゃってましたね」

自分の店を

牧志公設市場は、元をたどれば露天商を集めて立ち上げた

### 三芳商店 (松尾)

宮城 洋子さん(63)



田芋・島バナナ専門店の看板を掲げる三芳商店。那覇市松尾

## 義父母から継ぐ老舗



義父母から引き継いだ三芳商店を切り盛りする 二代目店主の宮城洋子さん



「この通りも、昔はよく活気があったんです」と洋子さん。「とにかく人通りも多くて、経済の中心という感じがありましたよ。向かいには公設市場の外間があった。基本的には野菜や果物を売る店が入っていましたね。うちと同じように田芋を扱った店もあれば、ごぼう屋さんだけも3、4軒並んで、すぐ食べるにはもったいないような良い品物を並べてたんです。このあたりは『下町』と呼ばれてたんですけど、今でも年配の方は『下町』に行けばいい品物が手に入る」とおっしゃいます。

田芋は旧正月の重箱に欠かせない存在。親芋の周りに子芋がたくさん実る様子が、田芋の豊穡さを象徴する食材とされ、子孫繁栄の願いを込めて祝い事にも重宝される。ただ、昔に比べると

「この道は極めよう」と何共、4年間を色濃く通して来た。いつも先を歩む仲間の時から思うようになった。球芸能専攻、5期生の同志と、新しい舞台に立つことに、新メンバーと共に新たな舞台作り、新しい出会いが膨らんだ。出会った。それまで自分自身、そこで出会った先生方や先輩、仲間からの学びは、自分の

「この道は極めよう」と何共、4年間を色濃く通して来た。いつも先を歩む仲間の時から思うようになった。球芸能専攻、5期生の同志と、新しい舞台に立つことに、新メンバーと共に新たな舞台作り、新しい出会いが膨らんだ。出会った。それまで自分自身、そこで出会った先生方や先輩、仲間からの学びは、自分の



田芋や島バナナ、果物などが並ぶ店頭

## 通りの再活性化へ団結



旧・牧志公設市場の解体工事に伴う囲いが設けられた三芳商店前の通り

「この通りには新しいお店が増えていて、通り会に参加して一番シヨックだったのは、うちの隣に乾物屋さんがあったんです。ここが一番の賑わいが出てきたので、どうやら老舗だったんですけど、それが閉店してしまつて、大黒柱と、今は皆で団結して頑張っています。これから工事が進んだとき、騒音に耐えられるかどうかはわからない、新しい市場ができるまで未知数な部分が多いんですけど、『ああ、ここは続けてるんだね』と言った。それまでアルバイトを雇っていたんですけど、この人通りでは雇い続けるのは難しいので、9月から私が一人でやっています。どうしてもお客さんが仮設市場の方も、今年も田芋の季節を迎えられていくので、新しい市場ができるまで、じつと待つ

「この通りには新しいお店が増えていて、通り会に参加して一番シヨックだったのは、うちの隣に乾物屋さんがあったんです。ここが一番の賑わいが出てきたので、どうやら老舗だったんですけど、それが閉店してしまつて、大黒柱と、今は皆で団結して頑張っています。これから工事が進んだとき、騒音に耐えられるかどうかはわからない、新しい市場ができるまで未知数な部分が多いんですけど、『ああ、ここは続けてるんだね』と言った。それまでアルバイトを雇っていたんですけど、この人通りでは雇い続けるのは難しいので、9月から私が一人でやっています。どうしてもお客さんが仮設市場の方も、今年も田芋の季節を迎えられていくので、新しい市場ができるまで、じつと待つ

(第4金曜掲載)

「日本のピアノ100年」ピアノ、世界的メーカーが育つてい...  
 「日本のお姉さん」のキャラクターがとりわけ面白く、彼女をめぐる「オチ」も、各巻で展開...  
 編26作。巻末解説で古川日出男が指摘するように「時間がほんとうに、ほんとうに長い」と感じられるストーリー...  
 著者